

# 用語一覧について

資料3

	用語	第5次プラン(案)
あ	SNS	ソーシャルネットワーキングサービス(Social Networking Service)の略。登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。
	M字カーブ	日本の女性の労働力人口比率(労働力率、労働参加率)又は就業率を年齢階級別にグラフ化したとき、30歳代を谷とし、20歳代後半と40歳代後半が山になるアルファベットのMのような形になること。
	L字カーブ	女性の正規雇用比率を年齢階級別にグラフ化したとき、20歳代後半をピークに、その後低下し、アルファベットのLのような形になること。
か	ケアラー	こころやからだに不調のある人の介護、看病、療育、世話、気づかいなど、ケアに必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする方のこと。
	固定的な性別役割分担意識	男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、「家事・育児等は主として女性が担うもの」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のこと。
さ	「JKビジネス」問題	児童の性を売り物にする営業の一つで、「JK」、すなわち「女子高校生」などの18歳に満たない者を雇い、表向きには性的サービスを行わない健全な営業を装いながら、「裏オプション」等と称し、児童による性的なサービスを客に提供させているものの問題。
	ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別(セックス/sex)がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」(ジェンダー/gender)という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。
	ジェンダー平等	「男女共同参画」と比べ、次の意味を明確に内包することが特徴 ① 性別による不平等や不均衡は社会的な構造に起因する ② LGBT等の性的マイノリティを内包する
	ジェンダー主流化	あらゆる分野でのジェンダー平等を達成するため、全ての政策、施策及び事業について、ジェンダーの視点を取り込むこと。
	ジェンダー統計	男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計のこと。
	持続可能な開発のための2030アジェンダ(持続可能な開発目標:SDGs)	2015年9月に国連で採択された、2016年から2030年までの国際目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むため、先進国を含む国際社会全体の目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を設定。ゴール5ではジェンダー平等の達成と全ての女性及び女性のエンパワーメント(自ら主体的に行動することによって状況を変える力をつけること)が掲げられており、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものとされている。
	性的指向・性自認(ソジ・ソギ)	性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をとった言葉。性的指向と性自認に関する課題として様々な性的マイノリティを包括的にとらえることはもちろん、多数派(マジョリティ)も含めた課題として考えることができ、すべての人にかかわる、LGBTよりも広い概念と言える。
	性的マイノリティ	生物学的な性(からだの性)と性の自己意識(こころの性)が一致しない人、性的指向(人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念)が同性や両性(男女両方)に向いている人など、社会的には少数派となるそうした人たちのこと。性的マイノリティのカテゴリーを表す言葉の一つとして「LGBT」がある。 ・Lesbian(レズビアン) 女性の同性愛者 ・Gay(ゲイ) 男性の同性愛者 ・Bisexual(バイセクシュアル) 両性愛者 ・Transgender(トランスジェンダー) からだの性とこころの性が一致しないという感覚(性別違和)を持つ人(医学上の診断名「性同一性障害」より広い概念) このほかにも、無性愛者(恋愛感情や性愛の感情を抱かない人)や、X(エックス)ジェンダー(性自認を男女のいずれかとは認識していない人)など、様々なセクシュアリティが存在する。

	用語	第5次プラン(案)
	セクシュアル・ハラスメント	相手が望まない性的な言動により相手方の職場、家庭、学校、地域その他の生活環境を害すること又は性的な言動に対する相手方の対応によりその者に不利益を与えることをいう。
	積極的改善措置(ポジティブ・アクション)	男女が、互いにその人権を尊重し、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供すること。
た	ダイバーシティ	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
	DV	ドメスティック・バイオレンスの略。プラン及び「かながわDV防止・被害者支援プラン」においては、「配偶者等(配偶者や交際相手等の親密な関係にある、又はあった者)からの暴力」のこと。
	デートDV	プラン及び「かながわDV防止・被害者支援プラン」においては、「交際相手からの暴力」のこと。
	テレワーク	Tele(離れて)とWork(仕事)を組み合わせた造語。情報通信技術を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。
は	パタニティ・ハラスメント	育児休業などを取得しようとする男性が職場で嫌がらせや不利益な取扱いを受けること。
ま	マタニティ・ハラスメント	妊娠・出産を理由に職場で精神的、肉体的な嫌がらせや不利益な扱いを受けること。
	見える化	関連する情報やデータを公開することにより、各主体の気付きを促し、問題意識を高め、自ら改善する努力を促進する取組のこと。
	無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)	誰もが潜在的に持っている思い込みのこと。無意識の偏見ともいう。育つ環境、所属する集団の中で無意識のうちに脳にきざみこまれ、既成概念、固定観念となっていく。
	メディア・リテラシー	メディアの情報を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし、活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力のこと。
ら	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	(リプロダクティブ・ヘルス) 人間の生殖システム、その機能と(活動)過程の全ての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあること  (リプロダクティブ・ライツ) 全てのカップルと個人が自分たちの子どもの数、出産間隔、並びに出産する時を責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利、並びに最高水準の性に関する健康及びリプロダクティブ・ヘルスを得る権利のこと。
	ロールモデル	将来において目指したいと思う、模範となる存在であり、そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣をしたりする対象となる人材のこと。
わ	ワーク・ライフ・バランス	国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。